

ICT 教育の推進

1 概要

○令和2年度 GIGA スクール構想の実現

1人1台端末を「個別最適な学び」や「協働的な学び」を推進するためのツールとして効果的に活用し、情報活用能力を育成することを目的に以下を整備した。

- ・高速大容量通信ネットワーク整備
- ・1人1台端末
- ・大型モニター
- ・ICT支援員の配置

○令和6年度

課題

- ① 一斉に端末を使うとネットワークの速度が著しく落ちる学校がある
→青堀小・富津中：令和6年8月回線増強工事
- ② プログラミング教育（小）：必修化されているものの教科として位置づけられていないことから、無料ソフト（スクラッチ等）を使って実践する程度にとどまっていることが多い。
※中学校は、市で導入しているプログラミングソフト（ライフイズテック）を技術科の中で活用し実践している。

→小学校において、島野勝弘氏を講師に、プログラミング教育を実践する。（詳細は下記2）

○令和7年度以降（ICT環境整備の予定）

- ・現在の端末等の賃貸借契約（令和3年3月～令和8年2月）→令和7年度末に契約が切れる
- ・令和9年8月まで6ヶ月リース延長し再リース契約
- ・令和9年9月から5年間のリース契約（国庫補助金あり・県の共同調達）

2 今後のプログラミング教育について

① 概要

小学校において、島野勝弘氏を講師に、プログラミング教育を実践する。

② 目的

- ・プログラミング的思考力を育成する。
- ・実際に物を動かすことによりプログラミングの利便性や社会の中でどのように活用されているのかを実感できるようにする。
- ・将来の目標設定のきっかけづくりとする。（キャリア教育の側面）

③ 具体的な活動内容

A：プログラミングソフトを活用しドローンを操作する

準備：iPad ドローン（令和6年度については追加購入の必要なし）

B：プログラミングとAIを活用したアプリケーションの開発（マスクをしている人を判別）

準備：普段使用している端末

④ 実施にあたり

- ・令和6年10月～令和8年度にかけて全小学校で実施（予定）
※R6は2校で実施予定
- ・小学校高学年（5・6年生）で実施
- ・1校当たり2コマ展開で実施（1コマ目：理論 2コマ目：実践）

⑤ 予算

- ・令和6年度 補正予算不要（現有台数 ipad4台 ドローン3台）
- ・令和7年度 360,000円

内訳

ドローン	20,000円×5台=100,000円
ドローンバッテリー	3,000円×10台=30,000円
Ipad	50,000円×4台=200,000円
講師	5,000円×6回=30,000円